



2017年1月27日

各 位

会 社 名 クックパッド株式会社
代表者名 代表執行役 岩田 林平
(コード番号：2193 東証第一部)
問合せ先 執行役 犬飼 茂利男
電話番号 03 (6368) 1000

のれんの減損損失の計上に関するお知らせ

当社は、2016年12月期決算の連結決算（IFRS）において、のれんの減損損失等約35億円をその他の費用（営業内）に計上する見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. のれんの減損損失の内容

(1) 海外レシピサービスの英国持株会社への集約

当社グループは2014年4月期からレシピサービスの世界展開を始め、主に買収を通じて地域別にサービスを提供してきました。

2015年12月期より、サービス開発効率を高めるため、グローバルで利用可能なレシピサービスのプラットフォーム（以下、「グローバルプラットフォーム」という）を開発し、順次当該グローバルプラットフォームに移行してきました。また、2016年12月期において、英国のCookpad International Ltd.を海外事業の全てを統括する第二本社と位置づけ、レシピ事業に関する知的財産をCookpad International Ltd.に集約させるとともに、海外事業の持株会社化を実施いたしました。

当該一連の知的財産の集約及び持株会社化により得られる新しい収益源泉は、従来想定していた各海外子会社単独で成長を続けることにより得られる超過収益力とは別に生み出される超過収益力と判断しました。これにより、従来認識していた超過収益力であるのれんは、今後使用見込みが実質的になくなったこと等から、認識し続けるべきではないとの判断に至りました。この結果、2015年12月期以前に認識されたのれん全額にかかる減損損失約27億円を計上する見込みとなりました。

(2) その他

株式会社クックパッドベビー及び、Cucumbertown, Inc.において今後の事業計画、回収可能額を慎重に検討した結果、合計約8億円の減損損失を計上する見込みとなりました。

2. 今後の見通し

当社は、2016年12月期決算の連結決算（IFRS）において、のれんの減損損失等約35億円をその他の費用（営業内）に計上する見込みとなりました。

なお、上記に関連して、2016年12月期決算の個別決算（日本基準）においても関係会社株式評価損を約47億円計上する見込みです。

また、2016年12月22日付の「子会社の異動及び持分法適用に伴う再測定による損失の計上に関するお知らせ」で開示しました、株式会社みんなのウェディングにかかる持分法適用に伴う再測定による損失約12億円及び今回の損失計上の見込みにより、2016年12月期決算の連結決算における税引前当期利益は2015年12月期の税引前当期利益を下回る見込みとなりました。

3. 配当について

剰余金の配当については、長期的な事業拡大に必要な内部留保の充実を勘案し、当社の経営成績及び財政状況並びにその見通しに応じた適切な利益還元策を柔軟に検討し、業績に連動した利益配分を実施することを基本方針としてまいりました。

今回開示しました減損損失に関しては、臨時かつ非現金支出費用であることを鑑み、2016年12月期の期末配当については、2016年2月5日付の「剰余金の配当に関するお知らせ」で開示しました、2015年12月期の期末配当の目途である連結配当性向25%を考慮せず、2015年12月期の一株当たり配当金額を維持する見通しです。

以 上